

「平成27（2015）年川崎市10大ニュース候補一覧」

1月(January)

1 富士通フロンティアーズがアメリカンフットボール日本選手権で優勝

かわさきスポーツパートナーである富士通フロンティアーズが、アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」で優勝し、創部30年で悲願の日本一に輝きました。

2 麻生区子育て支援アプリ（あさお子育てポータル）の実証実験を行う

富士通株式会社との間で締結した包括協定に基づき、麻生区子育て支援アプリ（あさお子育てポータル）の実証実験を行いました。同アプリは、郵便番号やこどもの生年月などを登録すると、対象年齢や地域に合わせて、子育てに関連する施設やイベント情報を簡単に入手できる便利なアプリ（9月にグッドデザイン賞2015を受賞）として評価も高かったため、来年4月に「かわさきアプリ」として全市に展開する予定です。

2月(February)

3 川崎港貿易額 輸出入とも過去最高に

平成26年の川崎港貿易額が輸出・輸入とも過去最高となりました。商品別で輸出額が最も多いのは自動車、次いで石油製品。輸入額では天然ガス・製造ガスが最多で、原油・粗油と続いています。

4 川崎区が多摩川河川敷で中学生死亡事件が起きる

川崎区が多摩川河川敷において、市内在住の中学1年生が暴行を受け、亡くなるという大変痛ましい事件が発生しました。川崎市は、この事件を重く受け止め、このようなことが二度と繰り返されることのないよう、全庁的な庁内対策会議を設置し検討を重ね、再発防止に向けた総合的な対策をまとめた最終報告書を8月25日に公表しました。

3月(March)

5 橘樹官衙（たちばなかんが）遺跡群が川崎市初の国史跡に

古代の武蔵国橘樹郡の役所跡である橘樹郡衙跡（高津区千年）と、郡衙に隣接して造営された古代寺院跡である影向寺遺跡（宮前区野川）は、日本の歴史を知る上で重要であると評価され、橘樹官衙遺跡群として、3月10日に川崎市初の国史跡に指定されました。

6 川崎富士見球技場（富士通スタジアム川崎）、等々力陸上競技場のメインスタンドが完成

川崎富士見球技場（富士通スタジアム川崎）と等々力陸上競技場のメインスタンドが完成し、それぞれ完成記念式典を行いました。市は、2つの施設を拠点とし、「スポーツのまち・かわさき」を市内外にアピールし、魅力あるまちづくりを推進していきます。

7 商業施設や保育所等が集積した「新川崎スクエア」がオープン

3月26日、幸区鹿島田に「新川崎スクエア」がオープンしました。同施設は、JR横須賀線新川崎駅と南武線鹿島田駅の2つの駅の間位置し、商業施設や保育所等が集積しています。また、30日には、「新川崎交通広場」がオープンし、歩行者デッキを通じて、新川崎・鹿島田地区がつながることで、利便性・快適性がますます高まっています。

8 市内チアリーディング・チアダンスチーム 全国大会で優勝

幸区を拠点とする「川崎キッズチアリーディング バンビーズ」と多摩区を拠点とするチアダン

スチーム「朝日フィットネスクラブ ビック・エス向ヶ丘 Fairy Smile」が全国大会の部門別で優勝を飾りました。バンビーズは、ジュニア編成（中学生以上）・シニア編成（高校生以下）・オープン編成（中学3年生以上）の中で最高得点を獲得して総合優勝チームとなり、5月に行われた世界大会に出場し、見事優勝しました。

9 日本オリンピック委員会（JOC）とパートナー都市協定を締結

川崎市と日本オリンピック委員会（JOC）は、パートナー都市協定を締結しました。同協定に基づき、世界をめざす現役トップアスリートの就職を支援する「アスナビ」を4月に神奈川県内で初めて行うなど、川崎市とJOCは、相互に連携・協力して2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功や川崎市のスポーツ振興に尽力していきます。

10 川崎商工会議所が中小企業活性化のための条例制定要望書を福田市長に提出

川崎商工会議所が、中小企業活性化のための成長戦略に関する条例の制定要望書を福田市長に提出しました。川崎市は、中小企業の活性化に関する条例の制定に向けた検討を行い、9月には基本となる考え方を取りまとめ、市民の皆様からの御意見を募集しました。

4月(April)

11 路線バス川崎病院線で「川崎スマートEVバス（電気バス）」が運行を開始

川崎駅前と市立川崎病院を結ぶ川崎病院線に長寿命で安全性が高いリチウムイオン蓄電池を使用した「川崎スマートEVバス」が4月から導入され、スマートシティの実現に向けた取組事例として大きな注目を集めました。

12 小児医療費助成事業の通院助成対象を小学校2年生まで拡充

川崎市は、子どもたちの笑顔あふれるまちを実現するべく、平成27年4月から小児医療費助成事業の通院助成対象を小学校2年生まで拡充しました。

13 ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）が始動

最先端研究施設「ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）」が運営を開始しました。同施設は、ライフサイエンス分野の拠点形成の核となる施設で、産学官が連携・協力し、ナノ医療技術を用いた難治療性疾患の診断・治療方法の具現化をめざして研究開発を進めています。

14 NECレッドロケッツが2014/15V・プレミアリーグ女子を制覇

かわさきスポーツパートナーのNECレッドロケッツが、女子バレーボールのV・プレミアリーグで10シーズンぶりの優勝を果たしました。

15 新たな川崎市議会議員による議会がスタート

4月12日、統一地方選の一つとして川崎市議会議員選挙の投開票が行われました。多くの市民が川崎の将来を考え、貴重な一票を候補者に託しました。5月には新たな市議会が石田議長、菅原副議長のもとでスタートしました。

16 川崎市の人口が政令指定都市で京都市を抜いて7位に

川崎市の4月1日現在の人口が146万6444人となり、京都市の人口を上回り、政令指定都市で全国7位に順位を上げました。2030年には152万人を超えることが見込まれています。

17 犬の殺処分数ゼロを2年連続で達成

川崎市動物愛護センター（高津区蟹ヶ谷）で収容された犬（迷い犬や飼い主が飼えなくなった犬）の殺処分数ゼロを、動物愛護ボランティアや市民の方々との連携・協働により2年連続で達成し

ました。また、不定期に行われていた犬と猫の譲渡会を7月から毎月第3日曜日に実施するなど、これからもいのちをつなぐ取組を推進し、人と動物が共生する心豊かなまちの実現をめざしていきます。

18 水素社会実現へ 株式会社東芝と自立型水素エネルギー供給システム「H₂One」の共同実証実験を開始

川崎市と株式会社東芝は、再生可能エネルギーから水素を「つくる」、その水素を「ためる」、そして燃料電池で「つかう」ところまでワンストップで行う世界発の自立型エネルギー供給システム「H₂One」の共同実証実験を川崎区東扇島の川崎マリエンで開始しました。市は、多様な主体と連携しながら将来の水素社会の実現に向けた取組をこれからも推進・発信していきます。

19 保育所待機児童数がゼロに

川崎市の保育所待機児童数が、統計がある平成12年度以降初めてゼロとなりました。市は、待機児童対策を最重要課題の一つに掲げており、これからも子どもを安心して産み育てられるまちをめざして取組を推進していきます。この取組の中で、横浜市と待機児童対策の連携協定を締結し、協力して取組を進めたことが、先進的な取組として評価され、10月にプラチナ大賞審査委員特別賞を受賞しました。

5月(May)

20 幸区役所新庁舎がオープン

平成25年4月に着工した幸区役所新庁舎が完成し、5月7日から新庁舎での業務を開始しました。新庁舎では、ユニバーサルデザインの推進や省エネルギー化、防災拠点としての機能強化を図るほか、地域コミュニティの拠点となる市民活動コーナーや、市政情報展示コーナーがあるロビー、飲食ができるラウンジなどを設置しています。

21 セイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎 開催

5月10日、世界陸上競技選手権大会の日本代表選手選考を兼ねた国内唯一の国際陸上競技大会「セイコーゴールデンランプリ陸上2015川崎」が3年ぶりに等々力陸上競技場で開催されました。同大会では、川崎市の提案によってパラリンピック種目の実施や障害者の就労体験など川崎ならではの試みも行われました。

22 川崎区日進町の簡易宿所で火災が発生

5月17日、川崎区日進町にある簡易宿所2棟が全焼し多数の死傷者が出ました。川崎市は、原因究明や再発防止に加え、市役所における各局の連携を強固にする観点から、早期に事故対策会議を立ち上げました。市は、市民の安全性確保に向けた取組を着実に実施し、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。

23 羽田連絡道路の整備方針が決定

国主催の委員会は、羽田空港跡地地区と川崎殿町地区の中央部に、両地区を結ぶ新たな橋梁を整備する方針を決定しました。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会をめざした整備を推進します。

24 株式会社ぐるなびと地域活性化連携協定を締結

川崎市と株式会社ぐるなびは、双方の資源を有効に活用した取組を通じて、川崎市の地域活性化に資することを目的に、地域活性化連携協定を結びました。市は、ぐるなびが持つ飲食店や料理人に関する膨大なデータや高い情報発信力等と連携することで、商業振興や外国人誘客を含めた観光振興、食文化の振興などを推進します。

25 さいか屋川崎店が閉店

昭和31年の開業から59年間にわたって川崎駅東口の顔として長く地域に親しまれてきたさいか屋川崎店が5月末をもって閉店しました。

6月(June)

26 東京急行電鉄株式会社と東急沿線まちづくりに関する包括連携協定を締結

川崎市と東急電鉄は、東急沿線のまちづくりに関する包括連携協定を結びました。市は、将来における沿線人口の高齢化や建物の高経年化の進展を踏まえ、東急電鉄が持つノウハウ等を活用することにより持続可能なまちづくりに向けた取組を連携・協力して推進していきます。

7月(July)

27 一輪車の全国大会で「川崎渡田一輪車クラブ」が初の総合優勝に輝く

川崎区を拠点に活動する女子チーム「川崎渡田一輪車クラブ MIRACLE(ミラクル)」が、2015さわやか全日本一輪車競技大会の演技部門・グループ演技で初の総合優勝に輝きました。

28 インドネシア共和国バンドン市と低炭素都市づくりの支援に向けた都市間連携を推進

川崎市とインドネシア共和国バンドン市は、両市の都市間連携を一層推進するため、環境技術の移転、人材育成や情報交換の促進等を定めた基本合意書の締結を行いました。市は、バンドン市における持続可能な社会の構築に寄与するとともに、市内企業のビジネス機会の創出を目指して取り組んでいきます。

29 川崎アゼリアがリニューアルオープン

JR川崎駅東口の地下街「川崎アゼリア」が7月31日にリニューアルオープンしました。リニューアル第1弾となる今回は、川崎駅東口で初めてとなる大規模食物販ゾーン「DERICHICKA(デリチカ)」が整備され、リニューアルオープン当日は、多くの買い物客で賑わいました。

8月(August)

30 平成26年度の市税収入が過去最高の2,966億円

平成26年度の市税収入が、人口流入による納税者数の増加等を背景に、過去最高の2,966億円となりました。

31 世田谷区との包括協定締結記念 川崎市制記念多摩川花火大会に30万人が訪れる

「第74回多摩川花火大会」が高津区河川敷で開催され、30万人を超える観客が音と光の競演を楽しみました。昨年12月に、川崎市と世田谷区が包括協定を結んだこともあり、都立深沢高校和太鼓部が川崎の会場で、洗足学園音楽大学が世田谷の会場でそれぞれ演奏するなどの文化交流も行われました。

32 新たな総合計画の素案公表 市民車座集会を開催

「新たな総合計画」及び「行財政改革に関する計画」の策定に向けて、市の素案(考え方)や取組の方向性を広く周知するとともに、市民の皆様から計画に対する意見を聴取することを目的に、川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)で「市民車座集会」を開催しました。市長による素案説明の後、市長と参加者との間で活発な意見交換が行われました。

9月(September)

33 藤子・F・不二雄ミュージアムが4周年を迎え、来館者数が200万人を超える

多摩区にある川崎市藤子・F・不二雄ミュージアムで開設4周年の記念フェアが開かれました。同ミュージアムは、「ドラえもん」などの名作漫画を生み出した藤子・F・不二雄さんの世界を楽しめる施設で、人気キャラクター「ドラえもん」の誕生日の3日は、記念のポストカードが配布されるなど、多くの来館者で賑わいました。なお、10月14日に同施設の来館者数が200万人を突破しました。

34 学校給食センターの整備等を行う事業者が決定

市立中学校で、温かいおかずやご飯がセットになった完全給食を実施するために、民間の資金やノウハウを活用したPFI事業による、学校給食センター整備等の事業者が南部・中部・北部の3か所すべてで決定しました。今後は、契約について議会の議決を経て、平成29年度の全校実施をめざして整備を進めていきます。

35 台風18号で避難勧告を発令 28万世帯62万人に

台風18号の影響で川崎市は、神奈川県と気象庁が発表した土砂災害警戒情報を受けて、市内28万世帯62万人に避難勧告を発令しました。川崎市では、土砂災害警戒情報が発表された段階で避難勧告を発令することとしており、土砂災害警戒情報とともに避難勧告を発令したのは初めてのことでした。

36 JR南武支線に新たに設置する駅名が「小田栄駅」に決定

今年1月に、「鉄道」と「まち」を共に発展させるため、東日本旅客鉄道株式会社が自治体との間で初となる包括連携協定を川崎市と締結しました。同協定に基づいて設置するJR南武支線川崎新町・浜川崎駅間の新駅の名称が、地域の方々による駅名投票の結果を踏まえて、「小田栄駅」に決まりました。新駅「小田栄駅」は来年3月に開業予定です。

10月(October)

37 戦後70年の戦没者追悼式を開催

川崎市と川崎市遺族連合会の共催による平成27年度川崎市戦没者追悼式が川崎市総合福祉センター(エポックなかはら)で行われました。今年は戦後70年の節目にあたり多くの遺族の方々が参列され、平和への誓いを新たにしました。

38 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」を開催

10月19日、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくための、多様な主体の協働の場である「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」を開催しました。福田市長とパラリンピアン成田真由美さんが共同委員長を務め、「かわさきパラムーブメント」を市民発のムーブメントとして展開していくためのプロジェクトを進めていきます。

39 「スター・ウォーズねぶた」も参加 日本最大級のハロウィンイベント「カワサキハロウィン」が今年も大盛況

19回目となる「カワサキハロウィン2015」が開催され、10月25日のパレードでは、川崎駅前をスタート・ゴールとした周回コースを、コースの片側全車線を規制して仮装者がパレード行進しました。また、映画スター・ウォーズの最新作公開に向けて、ルーカスフィルム公認の「スター・ウォーズねぶた」の出発式やパレードなど映画スター・ウォーズの関連イベントも行われ、沿道の12万人の観客がパレードを楽しみました。

40 大型農産物直売所「セレスモス宮前店」がオープン

10月27日、大型農産物直売所「セレスモス宮前店」がオープンしました。セレスモス宮前店は、平成20年に開設したセレスモス麻生店に続く2号店で、東急田園都市線宮崎台駅から徒歩6分の好立地にあり、オープン当日は、多くの買い物客で賑わいました。

11月(November)

41 川崎フロンターレの寄附により等々力第1サッカー場の整備を推進

中原区にある等々力第1サッカー場について、川崎フロンターレからの負担付の寄附によりグラウンドの人工芝化と照明設備の設置に向けた覚書締結式を行いました。議会の議決を経て、来年4月からの供用開始をめざします。

42 新しいジャズ・フェスティバル「かわさきジャズ2015」を開催

川崎市は、平成23年から「モントルー・ジャズ・フェスティバル・ジャパン・イン・かわさき」を開催してきましたが、これまでの4年間の成果を引き継ぎ、今年は、地域に根差したより川崎らしい新たなジャズ・フェスティバル「かわさきジャズ2015」を開催しました。

43 大久保嘉人選手 史上初Jリーグ3年連続の得点王に輝く

昨年、J1リーグで初の2年連続単独得点王に輝いた川崎フロンターレの大久保嘉人選手が、今年もゴールを量産して、Jリーグ史上初の3年連続得点王の偉業を達成しました。